

短歌 (投稿順)

台風が地震を起す学説を証明するよな台湾地震  
夏休みに来られなかつた曾孫らと手火花たのしむお彼岸の夜  
シニア隊電車と徒歩で花を追う心ときめく秋の遠足  
萬福寺良範様のご法話は我が行く道を照らすものなり  
未曾有なる台風日本上陸と予報士警告緊張走る  
曇天の隙間をぬって差し込む陽気持ちも晴れる台風一過  
ありがたき慶寿の祝いに感謝せり迎えし米寿俸せなりて  
牡を食べ腹子と一緒に交通事故死哀れカマキリ二匹を散見  
外連味を持ち合はせずも古稀過ぐや常に真を身方につけて  
思い掛けぬブルーベリーの豊かに実り採りたる後に礼肥を済す  
栗送り朋との電話楽しみて満足しつつ一日暮れゆく  
夏枯れの畑に一つのかほちゃ有り伸びしつる先まるまる太り  
夕陽浴び門柱の外飼い猫は風と戯るコスモス見てる  
学校に行きたいなんて思うとは休み時間の笑いの力  
墓参り元気な姿の友と会い互に励まし言葉に力  
今日も鳴る英国時鐘のチャイムの音女王の死を悼むかのごと

上日野沢 四方田利男  
三沢 眞下 杏子  
皆野 萩原 初恵  
皆野 石原 達也  
皆野 根岸 詩子  
皆野 大澤 貴夫  
下日野沢 浅見 豊子  
皆野 戸塚喜久雄  
皆野 引間 万亀  
三沢 新井 叶子  
三沢 新井 民子  
国神 藤原マキ子  
下田野 新井 節子  
皆野 太幡琉美花  
皆野 村田ハツ代  
皆野 打木 昭廣

俳句 榎本順江 選 投稿数 18句

栗飯や玉手箱のごと蓋開けて  
三沢 新井 民子  
(餅)味覚の秋、特に栗ご飯は楽しみのひとつです。今日は重箱に詰めた栗ご飯が届きました。仄かな香りのする蓋を開けるうれしい瞬間は玉手箱を開ける如くです。中七に思いを込めた秀句です。  
二句目、家族の最後にゆつたりとお風呂に浸る。今宵は十七夜(十五夜から二日目、立待月)窓から月が覗いています。月を見ながらのお風呂至福の時間です。  
三句目、連日テレビや新聞に見る悲惨な戦争の様子。早く平和が戻る事を誰もが願っています。一向に収まる気配も無く季節は移ってしまいました。  
仕舞湯や窓の高みに十七夜  
皆野 戸塚喜久雄  
揺れ尾花何を呟く母立ち日  
国神 土屋 良彦  
外つ国の酣戦止まず夏果てる  
三沢 新井 叶子  
天高し大欠伸して二度寝する  
皆野 石原 達也  
老いの身に玲瓏の月寄り添える  
下日野沢 小原 和夫  
台風過無垢の青空紫式部咲く  
皆野 根岸 詩子  
ささら舞うコロナ禍負けず秋祭り  
上日野沢 四方田利男  
亡き友等頼りに恋し虫時雨  
下日野沢 浅見 豊子  
七草寺三つ回りにて秋暑し  
国神 藤原マキ子  
秋草の揺るるにまかせ旅の空  
皆野 櫻井 早苗